

多様性に富む松本市街地の井戸水 — 松本盆地の地下水の水質について

話題提供 **藪崎 志穂**さん (総合地球環境学研究所・上級研究員)

日 時 **11 月 8 日(土)** 午後 1 時 30 分～3 時 30 分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200 円

※ 電話での事前申し込みが必要です (高校生以下は無料です)

松本盆地は松本市街地と周辺一帯からなる盆地で、南端の塩尻市から北端の大町市にかけて南北方向に長い形で広がっています。盆地の西側には標高 3000m 級の山が連なる飛騨山脈(北アルプス)、東側には標高 800～2000 m ほどの筑摩山地が、それぞれ南北方向に延びています。これらの山地の岩石や堆積物は風化作用などにより細かくなり、山地から流れる複数の河川によって運搬・堆積され砂礫層が形成されます。砂礫層は良好な帯水層であるため、盆地の地下には豊富な地下水が貯留されています。また、山地に降る多量の雨や雪は、盆地の地下水の主要な起源となっています。私は 2008 年から、この松本盆地の地下水や湧水等の水質の特徴や地下水の流れについて調査を行っています。

松本市街地は女鳥羽川や薄川などにより形成された複合扇状地が広がり、地下に堆積している厚い砂礫層にはたくさんの地下水が貯留されています。特に松本城の総堀の東側一帯は地形の特徴から地下水が集まりやすい場所となっており、かつては湧水や自噴井(自然状態で水が湧き出す井戸のこと)が多く存在していました。土地利用変化や市街地の発展などの影響により湧水や自噴井は減りましたが、今でもなお民家の井戸や市が設置した井戸など多くの井戸があります。こうした松本市街地の井戸水(地下水)の水質を測定すると、面白いことがわかりました。市街地の比較的狭い範囲に分布するにも関わらず、多様な水質の特徴を有しているのです。今回のサロンでは、なぜ松本市街地の地下水はこうした特徴を示すのか、松本盆地広域の水質の特徴と併せて紹介してゆきたいと思います。

藪崎志穂(やぶさき・しほ)さんは、筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球環境科学専攻を修了。理学博士。筑波大学、福島大学などでの勤務を経て現在に至る。溶存成分や同位体などの化学成分を利用して、地表水や地中水の水質や地下水流動の解明に関する研究を行っている。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986